

英語のデザイン (個人的常識、その1)

「LIFE」の意味とは

映画「モンティ・パイソン 人生狂騒曲」(原題 MONTY PYTHON'S THE MEANING OF LIFE、1983年製作)は英国の放送局BBCの伝説的な人気テレビ番組「空飛ぶモンティ・パイソン」(原題 MONTY PYTHON'S FLYING CIRCUS)を映画化したものです。

テレビ番組の方は日本でも私の日芸(76年頃)時代にテレビ放送され「変な番組！」だなど、日本のテレビ番組とは、どこか違うなと感じさせる、ナンセンスなコメディや、ブラックユーモアと知的ユーモアのある番組でした。

クリエイターを目指す人として一度は見て欲しい普遍的な作品です。映画の英語タイトルである、「LIFE」について、「ライフ・イズ・ビューティフル」「ライフ・イズ・ミラクル」など「LIFE」のつく題名の映画が増えているのも面白いところです、どうして「LIFE」が「人生」と言う意味の英語なのか？私には、答えがポエム(詩)だと憶えるのです。このポエム「LIFE」は私の個人的常識かもしれません。

「LIFE」

人生は「LOVE」の「L」から始まり、いつかは「THE END」の「E」で必ず終わる、そしてその間に「もしも・IF」が有るのが LIFE・人生。

このポエム「LIFE」を教えてくれたのは昔、晴海に国際展示場があった頃、晴海通りに面し、橋を渡る手前の喫茶店のマッチでした。

店に入り飲み物を注文し、タバコをくわえ、手にとった折りたたみ式マッチケースからマッチ棒をひねり取って、左から右に勢いよくこすり発火し流れる炎と煙、次の瞬間、煙が薄らぎ見えてきたマッチケースの内側にポエム「LIFE」の印刷文字が浮かび上がっていました。

ゆっくりと口元のタバコに火をつけ、タバコの白い煙がゆらりとくねりながら上がっていくのを感じつつ目はポエムを繰り返し読んでいました。

私にとっては大発見の出来事でした。

素晴らしい一つ一つの情報は発見してくれる人を静かに待っています、発見してくれた人生の冒険者、探険者に無上の喜びを提供してくれると感じました。このポエム「LIFE」の文言を私は正確に記憶できていませんが、シッカリと意味だけは心に刻み、今こうして語れることの喜びを与えてくれた、ポエム「LIFE」と、その喫茶店に大感謝です。(ポエムの作者と喫茶店の名は忘れました。)

人間誰でも親の「愛」から生まれるので、そのイトナミである「LOVE」の頭の



パイオニア社製1987年発売、LD(レーザーディスク)購入は90年代、今となつては「バック・トゥ・ザ・フューチャー2」の未来でLDが廃棄物扱いされている、皮肉そのものですけど、私の貴重なコレクションになりました。

「L」が「LIFE」の最初の文字の「L」であり、「LIFE」の最後の「E」は文字通り、いつか人間は死ぬさだめ、最期の「THE END」の「E」であると、そして「L」と「E」の間の2文字「IF」は、日本語で「もしも」と訳され、色々な人生の岐路に立った時の可能性だと想えます。

「もしも」を仮説として捉え未来への選択肢であるヴィジョンを意味する枕詞とすれば将来への希望の例として「もし、有名になったら、、、」「実力をつければ、きっと、、、」のように、明るい未来を想像できる言葉の意味として理解できます。かなり東洋哲学に近づいた意味になります。

最期があることは人生のさだめとは判っていても、どう生きるかは「もしも」なのです。自分の「人生」をデザイン、クリエート出来ることを意味していると想えます。その最初のイメージが、「思い」が、ヴィジョンの始まりだと思います。

モンティ・パイソンの映画のタイトル通り「人生の意味」、「生きる意味とは」を、「人生狂騒曲」と邦題にしたのは面白いなあと思いました。

今や英語を多少なりとも、話せないと海外では苦勞することもあり、国内でも観光立国日本を目指す以上、少しは話せるようになりたいものです。逆に「もったいない」などの意味有る日本語を海外に広めることも大切です。このアルファベットのポエム「LIFE」の意味、デザインを英語圏の人に質問して答えられる人がいたら教養ある英語知識をもった人ではないかと想います。

何気ない普段の出来事と映画とを関連付けて英語の名言を覚え、見聞を広め人生を豊かにしていきたいものです。

一字一句正しくはなくとも、その意味が自分自身の心に刻まれ、珠玉の名言として記憶され人生に彩(いろどり)を添えてくれることこそが、本来の言葉の意味であり、言葉としては英語の単語やフレーズも同じであると感ずります。

ちなみに映画モンティ・パイソンのエンディング近くに「生きる意味とは」の答として「健康に気をつけ、良書を読み、全ての人と仲良くする事」と対訳が出て、出演した人類を例えている水槽の人面魚達に感謝する字幕で終わります。

クリエイション、創造の意味は、決して画を描くことやパフォーマンスすることだけがヴィジュアルすることではなく、むしろ共通言語として自分と他人とが解りあえる手段として言葉が有り、そこには「思い」が有り、その「思い」をエネルギーとして相手の感性を刺激し膨らませ更なる進歩、発展を遂げることこそが、その意味を満たすと感ずります。

言い換えればこれこそが、共通言語・ヴィジョンの第一歩だと思います。

誰かが、ポエム「LIFE」を知っていれば、また作者をご存知であれば、訳が間違っていれば、正していただければと思います。

そうすることで個人的常識から普遍的常識にと、したいところです。

「正す」ことも人類の進歩と言う意味では、結果、大切な普遍的常識になります。